

- 1 開催日時
開会 令和3年8月23日(月)午後1時30分
閉会 令和3年8月23日(月)午後2時50分
- 2 開催場所
県庁10階 教育委員室
- 3 教育長及び出席委員
佐藤 博 教育長
小平 忠孝 委員
島山 将樹 委員
新妻 二男 委員
宇部 容子 委員
小野寺 明美 委員
- 4 説明等のため出席した職員
佐藤教育局長、高橋教育次長兼学校教育室長
渡辺教育企画室長兼教育企画推進監、中川学校教育企画監、森田高校改革課長、八重樫参事兼教職員課
総括課長、木村県立学校人事課長、清川保健体育課総括課長、藤原生涯学習文化財課総括課長
教育企画室：菊池主任主査、新田主事(記録)
- 5 会議の概要
 - 第1 会期決定の件
本日一日と決定
 - 第2 議案第13号 教育委員会の事務に係る点検及び評価に関し議決を求めることについて(教育企画室)
別添議案により説明

宇部委員：政策項目No.13【体育】について、昨年度は様々な調査が中止となった中で、「希望郷いわて元気・体力アップ60運動」の推進に取り組んでいただいたわけですが、今後ともぜひ継続をお願いしたいと思います。「いわて国体」を契機に、各校で取り組んでおりますが、大変良かった点としては、運動の得意・不得意にかかわらず、全校生徒と保護者並びに地域が一体となって取り組むことへの意識付けに繋がったことだと思います。そして、何事にも心身の健康が基本だと思いますし、昨年度からの新型コロナウイルス感染症対応でも、この取組を推奨することで、「家庭内でできることは何か」ということを考えるきっかけになったのではないかと思います。また、きちんと運動をさせたいけれど経済的な理由等から難しいと感じていた保護者の中でも、「できることから始めれば良い」という考え方に安心したという方もいらっしゃいました。新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たない中で、心身の健康を担う非常に重要な取組だと思います。カードについては、取組の期間等無理のないように工夫をし、継続的な活動を推進していくことが、生涯学習に繋がればと思っています。

清川保健体育課総括課長：「希望郷いわて元気・体力アップ60運動」は今後もしっかりと取り組んでいきます。おっしゃる通り、「60運動」につきましても、学校の方でもかなり浸透しております。この取組のねらいのひとつとして「運動が苦手な子をそのままにせず、児童生徒一人ひとりが運動・スポーツが好きだと感じるような指導」があり、家庭にも御協力いただきながら学校全体で一丸となって取り組んでおります。今後につきましては、カードのバージョンアップも検討しておりますし、全体的な取組内容についてもさらに深めていければと考えておりますので、引き続き御意見賜りますようお願いいたします。

小野寺委員：「特別支援学校が適切な指導・支援を行っていると感じている保護者の割合」の達成度が評価Bとなっている要因について、具体的に分析はできているのでしょうか。

中川学校教育企画監：こちらは積極肯定を対象とした数値となっており、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した保護者の割合ですと、数値としてはもう少し上がってくるものだと思います。しかし、今回は「とてもそう思うと感じている保護者の割合」ですので、残念ながら目標値には届いておらず、何が原因かという分析については正直なところまだできていないのですが、新型コロナウイルス感染症の影響により、授業参観等の保護者の皆様との交流機会の減少によるコミュニケーション不足等の課題はあろうかと考えてございます。

小野寺委員：分かりました。いずれにせよ、新型コロナウイルス感染症の影響は今後もまだ続くと思いますので、保護者の皆様が不安を抱くことがないようにこれからも支援をお願いいたします。また、モラル教育についての意見ですが、これは今後も継続して行うことが重要ですし、通り一辺倒の事は児童生徒も分かっていると思いますので、児童生徒の心により響くような教育の充実を図るとともに、情報機器に関してははじめや不登校への繋がりが深いと思いますので、数値に関わらず積極的に取り組んでいただきたいと思います。

中川学校教育企画監：御指摘ありがとうございます。おっしゃる通り、こちらははじめ問題にも密接に繋がることのみならず、今年度から一人一台端末によるGIGAスクール構想が本格的に始まっており、情報機器に触れる機会も増えていることから、文部科学省等からもそういったメッセージやマニュアル等が積極的に発信されておりますので、県としましても、それらを活用しながら進めて参りたいと考えてございます。引き続き御指導の程よろしくお願いいたします。

畠山委員：教育に関することを数字で見ることの難しさについて、この議案を審議する際には毎回感じておりますが、中でも原因分析に関しては、特にも難しいことだと思っております。評価の結果や原因分析は、対内的にも対外的にもメッセージとして伝わっていく性質があると思いますので、「達成度がAだから良い」「達成度がDだから悪い」というようなメッセージとはならないよう公表の仕方等を工夫することで、今後の取組に繋げていただければと思います。例えば、僅差で達成度がDというものもあれば、平成29年度の現状値を下回ってのDというものもありますし、僅差で達成度がAというものもあれば、現状値を大幅に上回っての達成度Aというものもあります。現状値を大幅に上回ったものについては、教育委員会として課題意識を持って取り組んでいるということのメッセージの発信に繋がると思いますし、達成度はそのままその施策の重要性を示すメッセージにもなり得ると思いますので、学校や家庭のみならず地域でも教育について考えるきっかけとなるような結果の公表や活用をお願いしたいと思います。

新妻委員：「学校が楽しいと思う（学校に満足している）児童生徒の割合」についての達成度はDですが、今回の評価が今後どのようなことに影響されてくるのかといったことや、先ほど畠山委員がおっしゃったように、数パーセントの差で評価が大きく変わるということについては、疑問に思うところもありますので、今後吟味していく必要はあろうかと思っております。また、先ほどの御説明にもあったように、今般の新型コロナウイルス感染症のため、学校での教育活動の自粛や、児童生徒自身もマスクの着用や消毒、ソーシャルディスタンス等によって、非常にストレスを感じる状況下であったわけですが、そのような中では学校が楽しいと思えないのはある意味当然ではないかと思っております。裏を返せば、そういった状況下でも、達成度がDとはいえ比較的高い実績値にとどまっているという点については、学校や保護者の皆様の努力の成果として評価に値すると思っておりますので、この状況下でもこの水準を維持できたことに着目して、場合によってはプラス評価としても良いのではないかと感じています。加えて、目標の設定については、場合によっては項目ごとの再検討も必要なのではないかと思います。現状値がそのまま目標値になっているケースもあれば、現状値をはるかに超えた目標値が設定されているケースもあるようですが、非常に高い目標値を設定してしまうと達成するのが難しくなってしまいますし、かと言って低い目標値を設定して達成度100%を並べることが良いことだとも思えないので、大変難しいことだとは思いますが、数値目標の立て方や数値目標を立てること自体の妥当性について考えざるを得ないケースもあるのではないかと感じています。今すぐということではなく、改めて目標を設定する機会があると思っておりますので、設定目標の根拠の明確化について今後の検討材料としていただければと思います。

中川学校教育企画監：御指摘ありがとうございます。「学校が楽しいと思う（学校に満足している）児童生徒の割合」については、今般の新型コロナウイルス感染症の影響により、従前の通り学校行事等が実施できない中で、同一学年ではないので単純比較はできませんが、令和元年であれば、小学校が85%、中学校が84%であり、どちらも2%上昇しているということで、目標値には届かないまでも割合が上昇に転じたという点につきましては、我々と致しましても評価をしているところでござ

います。そういった点につきましても、今後対外的に発信していけるよう取り組んでまいりたいと考えてございます。

新妻委員：今のお話に関連して、学年進行による割合の増減についてですが、極論を言えば、小学校3～4年生では高い実績値で小学校5～6年生では低い実績値となっている場合でも、学校全体の平均として見れば実績値が高くなるケースもあり得るということだと思います。項目によっては、児童生徒の成長につれて実績値がどう変化しているのかという点についても把握することができればと思いますので、こちらについても今後検討をお願いします。

原案どおり決定

第3 議案第14号 県立高等学校の学科の廃止に関し議決を求めることについて（学校教育室）
別添議案により説明

新妻委員：廃止の時期が令和4年4月1日になっていますが、これは生徒の在籍が令和4年3月31日までであること受けての期日設定という理解でよろしいでしょうか。

森田高校改革課長：令和4年3月31日が終了することをもって廃止するというので、令和4年4月1日施行としております。

原案どおり決定

議案第15号については、非公開とする議決がなされた。

第4 議案第15号 学校職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて（教職員課）
別添議案により説明

原案どおり決定

〔減給1月 生徒に対する不適切な言動 30歳代 男性 県立高等学校 教諭 県北教育事務所管内〕

会議結果の公表は、教育長に一任することとして議決された。